北國新聞　朝刊　2022年05月27日付　北陸経済

全力で今を生き切る

経営陣 ■サンコロナ小田

チェック柄のジャケットにストライプのシャツ。相変わらずの華やかな格好で、カメラを向けると、「こんなんでええか」と次々とポーズをとってくれた。屈託のない笑顔とサービス精神の旺盛さには、顔を合わせるたびに元気をもらっている。

6月に77歳を迎えるが、「今が青春真っただ中や」と言い切る。10年前の本紙インタビュー記事でも同じように語っていたから、今後もずっとそうなのだろう。

歌手のドレスに

国連で2015年にSDGs（持続可能な開発目標）が採択されて以降、繊維業界は大きく転換し、大量生産・大量廃棄から、環境配慮の方向にかじを切った。「うちはコロナ前から、いい製品をしっかりした値段で売る方針。良さを評価してくれるところが増えてきた」と手応えを語る。

特に1本の糸から複数の極細糸をつくる分繊技術は「世界でも唯一無二」と胸を張る。

この技術を生かした極薄の生地「オーガンザ」は、東京五輪の開会式で国歌を独唱した歌手MISIAさんのドレスに使用された。炭素繊維複合材料「フレックスカーボン」は、金属製のスパイクピンがない陸上用シューズの開発を実現させた。

「うちの技術をもとに、いかに新しい価値を創造するかをいつも考えている。熱き志で胸がいっぱいや」。これまでの仕事、これからの展望を次々と語る表情は明るい。

● 社長
小田 外喜夫氏

おだ・ときお　小松市出身。日大生産工学部卒後、小田合繊工業に入社。1975年にサンコロナを設立し、2013年から現職。76歳。

常務（社長補佐・特命事項担当）
高島　憲久氏
たかしま・のりひさ　輪島市出身、67歳

取締役インテリア事業本部長　**奥野　泰氏**
おくの・やすし　滋賀県長浜市出身、56歳

取締役管理本部長（経営企画担当）　**桶谷　泰一氏**
おけたに・たいいち　大阪府泉佐野市出身、70歳

取締役
新規事業本部長
小田宗一郎氏
おだ・そういちろう　兵庫県西宮市出身、39歳

●は代表権

唯一無二の技術 東京五輪開会式に

イキイキ経営

経営方針は「イキイキハートのイキイキ経営」である。トップが「イキイキ」しているのは一目瞭然だが、それを社員にも共有したいと考えている。「組織と個人がそれぞれしっかり目標を持つことが、イノベーションを生む。社員には自主性を持って仕事をしてほしい」。

グループ全体の約600人のうち、営業やデザイナーなど約120人を対象に年2回、自らが面談を行う。「自分の今を顧みて成長してほしい」と狙いを語るが、この話になると、表情が少しきつくなった。

「一流のブランドと対峙する時は一流の仕事をしないといけない。メールの送り方一つにしても、相手のことを考えて、1回で全てが分かる内容と書き方をしないといけない」

海外の有名ブランドと商社を介さずに直接取引し、一流の厳しさを肌で感じるからこそ、社員にも高いレベルを求める。ある人から「声を荒げている時もある」と教えられ、「イキイキ」の意味を考えさせられた。柔らかい表現だが、甘くはない。

取材に同席した長男の小田宗一郎取締役は、「目の前のことに全力投球。今を生き切っているんや」と隣で熱く語る父について、「止まったら死にますよね」と笑って一言。世代交代の日は、まだまだ遠そうだ。

サンコロナ小田（本店・小松市、本社・大阪市）　1955（昭和30）年に小田合繊工業として創業。グループ会社として75年にサンコロナ設立、88年に小田合繊工業の事業を引き継いだ小田ゴウセンを設立した。2013年にサンコロナと小田ゴウセンが合併し、現社名となった。21年6月期の売上高は181億円。

記者の目

趣味を聞くと、パラグライダーやウインドサーフィン、スキーをしていた時期があったそう。「ホノルルマラソンを走った翌日、スカイダイビングをしたなあ」と、昔を懐かしむ。

今は「仕事が趣味」ときっぱり。1年を通して休みらしい休みはなく、土日に出社することも多いというが、疲れた様子はない。

隣の秘書は「仕事をするのも空を飛ぶのも、同じ感覚なんですかね」と笑う。原材料価格の高騰など課題はあるが、たとえ荒波でも、前向きに突き進んでいく姿が目に浮かんだ。

（経済部・北村拓也）

©北國新聞社